

視察調査・研修会等報告書

令和5年11月2日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員長篠 崎 佳 之様



議員氏名(土方美代)

)

研修・視察年月日	令和5年10月12日 ~ 13日
研修会場・視察先	八戸市公会堂・公会堂文化ホール
研修名・視察目的	第85回 全国都市問題会議
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	全国市長会・公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所
参加議員(同行者)	刈部勉・森田晃吉・永田健一郎
調査概要	文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展をテーマに八戸市のまちづくりの在り方を広聴した。文化芸術と聞くと、どうしても美術館のようなものが連想され、美術館の使い道とは、こうあるべきだという固定観念がある。おなじくスポーツ施設整備というと、従来のサッカー場整備や野球場の整備などがイメージされやすい。しかし、その固定観念を捨て、市民がどのような催しをやりたいか、どのような使い道をしたいのか、市民主体で利用方法を考え、自由な表現の場を提供することが行政の仕事であるとおっしゃっていました。はじめは、シャッター外の中に新しい箱物を造ることに9割の市民が反対していたが、建設前の2年間をかけて住民に説明し、地元の方々に提案を形にしていっていったことが成功の秘訣。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	小山市が大規模な開発を伴う箱物やスポーツ施設を建設しようとする、どうしても中心地から離れた広大な土地のある市街化調整区域に建設しようと計画を立てていますが、それだと、施設利用のみのためだけに行くことになり、ほかの店舗が建設できません。そのため、周辺で食事をしたりお茶を飲んだりと遊ぶことができません。これらは経済効果という側面からみると大変もったいないことであり、施設を利用しない人にとっては一生お出かけすることのない場所になってしまいます。これからの公共施設は、市街地に持ってくるか、調整池なら周りの開発基準を緩和するか、どちらにせよ公共施設を中心に人の流れをつくることが重要。